



とう か

東京農業大学稲花小学校

学校案内 ver.05 (2025.04)

(ホームページダイジェスト)

2019年4月開校

所在地: 東京都世田谷区桜三丁目33番1号

入学定員: 72人(男子36人／女子36人)



このパンフレットでは、東京農業大学稲花小学校のホームページの内容から、その一部、特に本校の特徴を表す内容について紹介しています。

ぜひホームページをご覧ください。

www.nodaitoka.ed.jp

校長挨拶



東京農業大学稲花小学校 校長

杉原 たまえ Sugihara Tamae

東京農業大学 副学長 博士（学術）
東京農業大学 国際食料情報学部 国際農業開発学科

専門分野： 農村開発協力分野
研究テーマ： 農村開発と慣習

私たちの東京農業大学は、1891年に榎本武揚公によって創設された、農学・生命科学分野に特化した全国でも数少ない大学であり、世田谷、厚木、北海道オホーツクの3キャンパスに全23学科を展開、「実学主義」を教育理念とした実践的な教育を実施しています。

「農学」というと、「農業」のイメージを持たれるかもしれませんが、自然のこと、食のこと、地球環境のことと、実に幅広いテーマを対象としています。これらは、私たちの生活に身近なものであり、人間が生きていくためにとても大切なことです。そして、生活に身近であるがゆえに、東京農業大学の教育・研究資源が小学校の教育に活かせると考えました。

東京農業大学の各キャンパスや、全国に設置された実験・実習施設には、専門的な設備や人的資源が豊富にそろっています。たくさんの卒業生がおり、連携する企業もあります。それらを活用すれば、子どもたちが、生きるために必要な力を育くむ教育が実現できる、という思いが、小学校を設置に至った基本的な考えです。

小学校の名前に用いられた「稲花」は、東京農業大学の「大学の花」でもあります。子どもたちが、まるで1本の穂に200粒近い「コメ」を実らせる稲のように、様々な力と、可能性を育んでいくことができれば、なによりと思います。



東京農業大学創設者

えの もと たけ あき
榎本武揚公
(1836～1908)

写真:国立国会図書館より

教育理念は「冒険心の育成」

榎本武揚公は、12歳から江戸幕府の昌平坂学問所で、儒学を学びました。26歳の時に幕府初の海外留学生に選ばれ、オランダに留学、4年余の間に洋式海軍技術や国際法、農業、工業などを学び、蘭、仏、独、露の4か国語を身につけました。

帰国後、海軍副総裁となりますが、間もなく戊辰戦争が勃発。土方歳三らと共に明治新政府軍と戦いますが、敗北し、投獄されます。しかし、近代科学の知識と、国際事情に通じた博識を惜しんだ明治政府から出仕を要請され、農商務大臣、文部大臣、逓信大臣、外務大臣などの要職を歴任。近代日本の発展に大きく貢献しました。

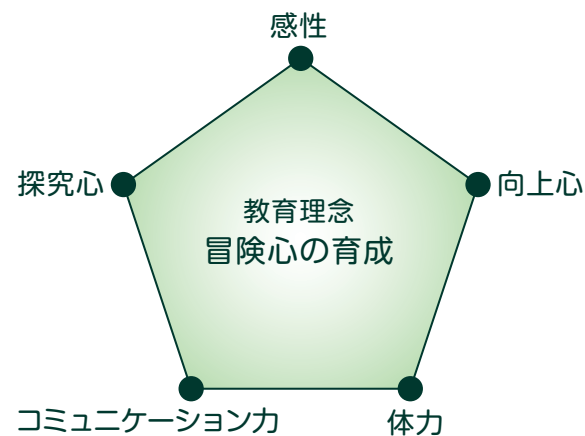
日本が国際社会での競争力をもつためには、安定した農業生産力の発展が欠かせないとの考えから、1891年に設立した徳川育英農學科が、東京農業大学のルーツです。「教育とは、セオリー(理論)とプラクティス(実践)の二者が車の両輪のように並び行なわれることで、はじめて完全なものとなる」という確固たる理念は、「実学主義」として現在の東京農業大学にも脈々と息づいています。農大稲花小の子どもたちは、その最も若い後継者といえます。

榎本武揚公は、未知なるものにひるまず、困難に立ち向かうことの大切さを、「冒険は最良の師である」とオランダ語の書に表現して知人に贈っています。東京農業大学稲花小学校は、この言葉に基づき「冒険心の育成」を教育の理念とします。未知なる新しい世界に挑む気骨と主体性をもち、本気になって取り組み、科学的・実践的に学ぶ人間を育てます。

Onderneming is de beste
meester. Voor de Heer Amari. van zijn vriende
Enomoto Takeaki

榎本武揚公が知人に贈った「冒険は最良の師である」のオランダ語自筆

理念を 具現化する、教育方針「3つの心と2つの力」 教育指標とする「10の能力」



「冒険心」を形成する5つの要素「感性」「探究心」「向上心」「コミュニケーション力」「体力」に着目し、これら「3つの心」と「2つの力」の育成を本校の教育方針とします。

そして、その教育方針をさらに「10の能力」に細分化し、カリキュラムの教育指標とすることで、教育理念の具現化をめざしていきます。

- | | |
|---------|---------|
| ① 興味・関心 | ⑥ 目標設定力 |
| ② 創造力 | ⑦ 発信力 |
| ③ 問題解決力 | ⑧ 傾聴力 |
| ④ 習得力 | ⑨ 持続力 |
| ⑤ 主体性 | ⑩ 自律力 |

「体験し、体験から学ぶこと」を重視

農大稲花小に隣接する東京農業大学には、生き物や食、環境といった身近なテーマを専門的に追究する研究設備が多数あります。それらを活用し、多様な体験型学習をカリキュラムに組み込んでいます。

とはいえ、教室を離れ、実際に物に触れ、新鮮な体験をすることだけを目的とはしません。子どもたちが主体的に関わり、「なぜ！？どうして！？」と考え、深く理解することで、「10の能力」を育む機会とすることこそ、「体験」の大切な意味と考えています。

充実した体験型学習により、「10の能力」の育成を促進し、考える力と学び続ける力を獲得させる。その構造の構築が、農大稲花小の体験型学習のめざすところです。

「生き物」や「食」を数多く題材に

農大稲花小の教育理念は「冒険心の育成」です。そして、その理念の実現のために、東京農業大学が専門とする「生き物」や「食」に関する様々な資源を活用していきます。

総合的な学習の時間「稲花タイム」では、田植えや稲刈り、野菜の栽培、動物の観察、料理、科学実験など、さまざまな体験に取り組みます。活動のフィールドも、東京農大の世田谷キャンパスだけでなく、厚木キャンパスや、一般生産者の田んぼや畑だったりします。学習指導要領では3年生からとする「理科」と、5年生からとする「家庭科」も、少しずつではありますが1年生からスタートします。

また、年に1度の宿泊学習では、1年生は東京農大とつながりの深い「伊豆シャボテン公園」を訪問します。高学年時には、北海道オホーツクキャンパスや、宮古亜熱帯農場への訪問も予定しています。



農大稲花のカリキュラムと、その理由。

毎日の「英語」は1年生から

「言葉」は「冒険心」のフィールドを拡げるために不可欠なものであり、グローバル化が進む今日において、「英語」は子どもたちにとって将来重要なツールになっていくと考えます。そのため、農大稲花小では下記の2点を軸と位置づけ、一人ひとりにじっくりと英語力を浸透させていきたいと考えています。



①習得の時間(英語科の授業)

1年生から、毎日1時間の英語科の授業を実施します。1クラスを2グループに分け、英語をネイティブとする外国人講師が英語だけの授業をします。プログラムには、グレープシティ株式会社による「GrapeSEED」を使用します(入学時の英語習熟度を問わず、全員が同じカリキュラムを学びます)。

②活用の時間(外国人講師とのコミュニケーション)

「言葉」は、習得することがゴールではなく、それを用いてコミュニケーションをとることが目的です。外国人講師は、休み時間や給食、稲花タイムの体験学習といった様々な時間のなかで、可能な範囲で子どもたちと行動を共にします。習得した英語を使うことで、知識が定着するだけでなく、コミュニケーションの楽しさや喜びを感じることで、子どもたちに新たな語彙の習得への意欲をかき立てます。

1日最大7時限。時間をかけた丁寧な授業

本校のカリキュラムは、一般的な小学校と比べると、授業の時間数が少し多めです。しかし、それはたくさんのことを子どもたちに詰め込むためではなく、初等教育において本当に大切だと考える内容を、じっくり、丁寧に学んでもらうための時間数と位置付けています。子どもたちの状況を常に確認しつつ、バランス良く成長できる授業をつくっていきます。

1年生の時間割(例)

	月	火	水	木	金
	朝読書				
1時間目	国語	国語	国語	国語	国語
2時間目	生活	算数	算数	算数	算数
3時間目	体育	英語	体育	英語	体育
4時間目	英語	音楽	英語	音楽	英語
	給食				
5時間目	道徳	国語	図画工作	稲花タイム	国語
6時間目	国語	理科	図画工作	稲花タイム	学級活動
7時間目				稲花タイム	

スマートで機能的

登下校は制服を着て

農大稲花小では、通学や授業では制服の着用を基本としています。

女子のスカートは、活動しやすく、防犯面でも安心のキュロットスカート使用。男子のハーフパンツは、高学年時はスラックスに変更予定です。

そのほか、夏冬それぞれの帽子、制靴、指定ランドセルが、登校の基本スタイルとなります。

制服は、ジャケットも含め、自宅の洗濯機(手洗いモード)で洗濯が可能です。

また、体育や稲花タイムなどの様々な活動には、実習着を着用します。TPOに合った服装で、ある時は礼儀正しく凛々しく、またある時は活動的に、子どもたちは成長します。



(農大稲花タータンチェック)

制服に用いられているタータンチェック柄は、緑は東京農工大学のスクールカラーである松葉緑を、青は東京・世田谷の新しい学校のイメージを、ベージュと白のラインは校名のモチーフである、稲とその花をイメージしてデザインされました。



通学見守りシステム「ツイタもん」で 登下校がメールで分かる

非接触型の通学メール配信システム「ツイタもん」を導入しています。ランドセルのポケットに入れた専用ICタグが正門を通過すると、指定の保護者アドレスにメールが送信されるため、登下校の時間がリアルタイムで分かります。

スマホからでも確認できる

WEBを活用した情報配信

保護者に向けた、学校からのお便りや給食の献立表などは、ホームページ上の在校生向けページに、PDFデータでアップロードします。また、重要事項や急を要する場合、ご登録のアドレスにメールを配信します。

保護者がお手持ちのスマートフォンで確認することができるため、自宅に戻る前であっても、常に最新の情報を把握することが可能です。

児童を見守る。保護者を支える。



校内の給食室で調理した 週5日の温かい給食

農大稲花小では、給食の時間を「食育」の一環と位置付けています。校舎内の厨房で調理された温かい給食を、週5日提供します。

(献立方針)

- ・旬の食材を活用し、栄養バランスのとれた豊かな食事を提供します。
- ・健康の増進・体位の向上を図る、きめ細かい献立を提供します。
- ・食に関する指導を効果的に進めるために重要な「生きた教材」としての献立や食材を工夫します。
- ・東京農大と関連のある企業や生産者の食材を取り入れます。
- ・郷土食や行事食を取り入れます。
- ・和食のよさを知ると共に、外国の食文化を学ぶ機会を取り入れます。



特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクールによる 「農大稲花アフタースクール」の併設

共働き世帯や、様々な家庭のスタイルが増えている社会背景を考慮し、放課後でも子ども一人ひとりの個性を伸ばしていく体験活動や、充実した遊びを安全な環境で実施することをめざし、アフタースクールを校舎内に設置します。

- ・保護者の就労要件は問いません。(人数制限なし)
- ・平日は18時30分まで利用できます。(延長は19時まで)
- ・夏休みや平日の学校休校日も開室します。
- ・宿題をしたり、友達と遊ぶなどして自由に過ごす「通常活動」と、専門のスタッフによる運動や音楽などの「プログラム」で構成しています。
- ・「農大前バス停」「経堂駅」まではスタッフの随伴下校があります。
- ・料金等の詳細はホームページをご参照ください。



科学実験プログラムの様子

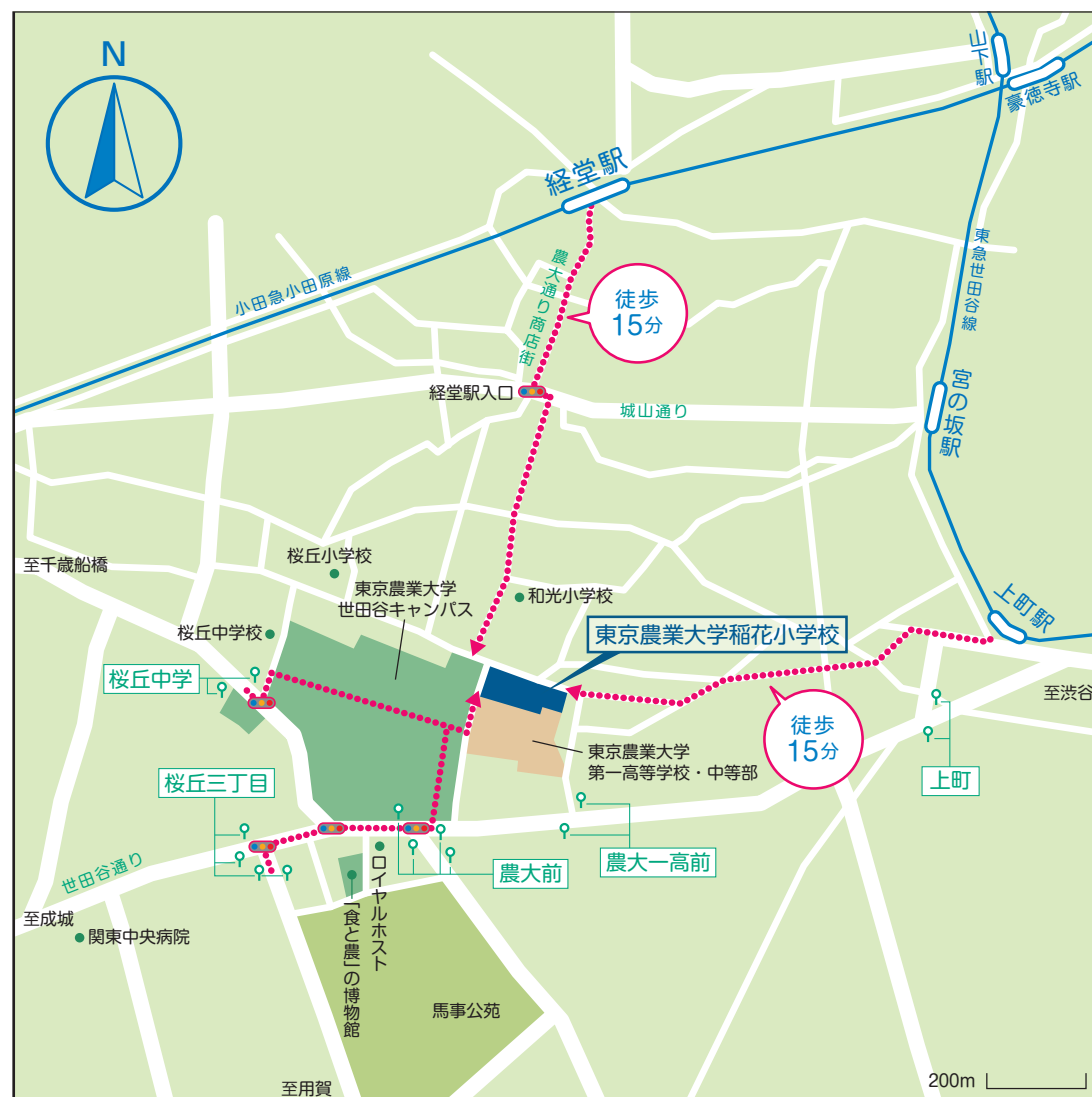
初年度納入金

内容	金額
入学金	250,000円
授業料	年額 600,000円
施設設備費	年額 100,000円
教育充実費	年額 200,000円

この他、給食費、英語指導料、通学メールシステム利用料、制服及び実習着購入費、教材費、学外活動費等があります。

詳細はホームページでご確認ください。

交通アクセス



- 小田急線「経堂駅」または東急世田谷線「上町駅」徒歩約15分
- 小田急バス・東急バス「農大前」徒歩約5分
- 小田急線「千歳船橋」「祖師ヶ谷大蔵」「成城学園前」、
東急田園都市線「用賀」「三軒茶屋」「渋谷」等からの路線バス利用「農大前」下車徒歩5分

お問い合わせ

東京農業大学稲花小学校

✉ toka@nodai.ed.jp

☎ 03-5477-4115